

週刊 タバコの正体

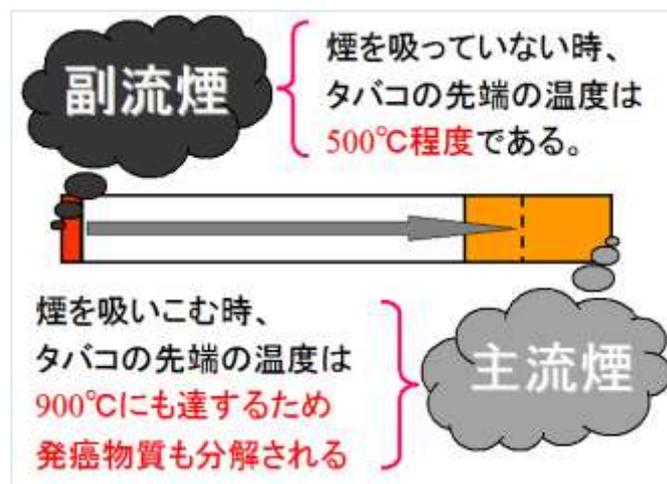
タバコの手先から出る煙(副流煙)は、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)よりも有害です。だから、他人のタバコの煙を吸わされる受動喫煙は有害なのですが、でも、どうしてなのでしょう。

それは、タバコが燃える温度と吸い口についているスポンジ状のフィルターが関係しているのです。

● たばこの煙から出る有害物質 ●

主流煙 喫煙者が吸うたばこの煙		副流煙 たばこの火から立ち上る煙	
ニコチン (血流を悪化)	0.46mg	ニコチン (血流を悪化)	1.27mg
タール (やに・発がん物質)	10.2mg	タール (やに・発がん物質)	34.5mg
一酸化炭素 (酸素不足を招く)	31.4mg	一酸化炭素 (酸素不足を招く)	148mg

資料 厚生省(現在厚生労働省)編「喫煙と健康」第2版(2002)



日本生活習慣病予防協会『紫煙の怖さと生活習慣病予防』サイトから

右図を見て下さい。喫煙者が煙を吸い込んでいない時の温度は500°Cなのに対し、吸い込むと900°Cまで上昇します。これは暗闇でタバコを吸い込むと先端が明るく光る事からも分かります。吸い込んだ息で十分に燃焼する酸素が供給されている状態で、タバコに含まれる有害物質の多くは分解されてしまいます。そして、この煙はフィルターを通過するため、さらに有害物質は少なくなります。

ところが一方、火が付いたまま放置されているタバコの煙はどうでしょう。温度は半分の500°Cしかありません。これは十分に燃焼するだけの酸素が供給されていないからです。つまり、くすぶっているのと同じで“不完全燃焼”をおこしているわけです。不完全燃焼をおこすと一酸化炭素が多く発生するのに加え、温度が低いので有害物質の多くは分解されません。おまけにこの煙は、フィルターを通過せず直接あたり一面に漂っていきます。

いかがでしょう、「恐るべし“副流煙”」と感じませんか。そして、そんな副流煙が突然漂うような社会は安心できないな、と思いませんか。でも現実には、この事実を知っている人は非常に少ないので、タバコくさい所は多いですね。

そこで、これから大人になる君たちがタバコを吸わない事を願い、いつの日か、どこに行っても安心できる社会になる事を期待したいと思っています。

産業デザイン科 奥田 恭久